

市民に厳しく、自分達に甘いさがみはら市議

財政が厳しい中、『市長や議員のボーナスアップ』、市民サービスはダウン

言うまでも無く議員は市民の代表として選挙で選ばれ、その役割は、市長から提案された議案の審議議決、必要に応じて議案の提出、行政(市政)の問題点や疑問点のチェック等が主なる仕事です。その仕事の対価として、報酬(給料)が支給されています。現在、市の財政はひっ迫し、市民サービスが相次いで削減されている中で、市長や市議会議員のボーナスアップは言語道断です。このボーナスアップは今年に限られたことではなく、ここ数年恒常化しています。更に議員数にしても神奈川県内の政令市の中では圧倒的に多いさがみはら。市民の信頼の上に成り立つのが議員であるならば、“財政の厳しさ”を政治家自身が範を示す意味でも、真っ先に『身を切る改革』から始めるべきです。ところが実際は以下のとおり。市民感覚からかけ離れたものです。

市長・議員のボーナスアップや市外郭団体への不当支出の追認、さらに市民プール・ジム使用料値上げ、小中学校給食費値上げ、公民館等使用料有料化、一般ゴミ回収日、週3回～2回など等。これらについても市議会で審議・議決されたものです。・・・これが市民のための代表(市議)の実態でしょうか？

以上は、私の日々の活動を通じて、多くの市民皆様から寄せられた生の声によるものです。

さがみはら市“財政の厳しさ今後も続く”市長が発表

昨年11月1日、加山市長は『平成30年度予算編成方針』を定め発表しました。

この中で『本市は、平成28年度決算において、初めて経常収支比率が100%を超え、徐々に進行していた財政の硬直化が顕著となった。』と認め、『平成30年度の歳入歳出は、市税収入の増加が見込めない一方、義務的経費の増大などにより38億円の財源不足が見込まれる。』更に『今後を見通すと、少子高齢化や本格的な人口減少社会を迎える中で、市税の大幅な増加が期待できず、引き続き厳しい財政状況が続く。』とあります。

市民の代表『審議議決権を持つ市議』、このままで良いのかさがみはら？

徐々に進行していた『財政の悪化。』当然のこと、大胆な行財政改革に着手していなければなりません。その先頭に立つのが市民の代表である市議の重要な仕事です。こうした市の状態を熟知しているはずの市議自らがボーナスアップを議決し、財政難を克服するための改革案を市民に提示せず、相次ぐ市民サービスの削減(ダウン)を決める大多数の市議。このままで良いのでしょうか？ 変えましょうさがみはら !!

市民の期待に応えられる議員を目指して、これからも懸命に頑張ります。

★県内3政令市の議員数と人口割合

市の名称	議員数(人)	人口(人)	議員1人当り人口(人)
横浜市	86	3,740,497	≒43,490
川崎市	60	1,515,142	≒25,250
相模原市	46	723,507	≒15,720

※議員数と人口は、平成30年6月1日現在の数値です。

※相模原市を川崎市並みにすると723,507÷25,250=28.65人、29人に削減できます。

★議員を選ぶのは市民です。まさに市民の声を率直に聴いて見たいと思います。